

授業実践Ⅱ 小学校第4学年学級活動学習指導案

指導月日 平成30年10月25日

所属校名 大崎市立西古川小学校

氏名 本宮 千佳

1 題材名「地域の災害を知ろう」

2 題材の目標

地域の特徴から、起こり得る災害について知り、児童が自ら考え、話し合うことで、災害への備えや避難行動の仕方を理解する。

3 題材観

本題材は、小学校学習指導要領特別活動〔学級活動〕の内容「(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」の「ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成」を受けて設定したものである。

宮城県は、東日本大震災を経験し、大きな地震・津波被害を受けている。平成27年9月関東・東北豪雨（以下、関東・東北豪雨）の際には、大崎市を流れる鳴瀬川水系の渋井川が決壊し、全国的に大きなニュースとなった。勤務校である西古川小学校周辺には同じく鳴瀬川水系の渋川が流れており、大雨や台風により川が増水すると、洪水害や浸水害が発生する恐れがあるという地域の特徴を持つ。

本題材では、地域の特徴を考慮し、水害について重点を置いて取り上げる。第4学年という児童の実態を踏まえ、自助の力を育成するために題材の内容を構成した。学校近郊にある河川などを取り上げて、水害についての具体的な場面設定を行い、児童が自分事として捉え、どのような行動をとれば安全に避難できるのかを考えられるようにする。

また、授業の内容を家庭に発信したり、保護者と一緒に防災手帳を作成したりすることによって、児童が保護者とともに災害に対する備えについて考える環境を整え、家庭と連携して児童の防災意識を高めていく。

4 児童の実態〔第4学年1組 男9名 女6名 計15名〕

(1) 東日本大震災と関東・東北豪雨のときの児童の状況

児童は、平成23年3月11日に起きた地震の際には2、3歳であった。当時の記憶はほとんど残っておらず、53.3%の児童は地震が起きても「怖くない」と回答している。関東・東北豪雨では、学校近郊の渋川が決壊したため、浸水被害を受けた児童が数名いる。その経験から地域内の浸水範囲を知っている児童が多い。一方で、大雨や台風は「怖くない」と答えた児童が66.6%もいた。河川の水が増水したのは、深夜から早朝にかけてであった。就寝していた児童がほとんどで、避難した家庭は少なかったことが要因と考えられる。

(2) 意識調査の結果から

I期の授業前の意識調査では、33.3%の児童が「一人で避難できるか分からない」と回答していた。I期の授業や社会科、理科で災害について学習してきたことで、「一人のときは近所の大人と避難する」「家族と話し合っておき、一人でも避難する」というような意見が多く出され、避難することに対する意識が変化してきた。一方で、「冠水しても泳いで逃げる」「車で避難する」と答えた児童もいた。災害による被害を現実のものと捉えられていない児童も数名いることが分かる。

(3) I期の授業から

I期の授業では、洪水が起きた場合の危険を考え、どのような行動をとると安全に避難することができるのかを学習した。状況に応じた避難の仕方について意見を出し合いながら考えようとする

姿が見られた。ワークシートに自分の考えを記入してから、p 4 c 形式での話し合いを行ったことでどの児童も自分の考えを積極的に述べるようになった。I 期の授業後には、児童から平成30年7月豪雨の話が出たり、避難場所の看板を見付けたことなどを教えてくれたりと、災害について意識する発言が増えてきた。しかし、I 期の授業の発言や休み時間の友達同士の会話を聞くと、災害が自分の身にも起こり得ると思っている児童は少ないように感じる。全体的に防災に対する意識はまだ低い現状である。

5 指導観

本題材では、地域の特徴から起こり得る洪水害について取り上げる。地域の特徴を理解し、どのような災害が起こり得るかを考えさせることで、災害を自分事として捉えられるようにする。さらに、災害時の行動について自分で考えたり、友達や家族と話し合わせたりすることで、防災についての意識を高め、適切な行動をとれるようにしたい。

第一時では、関東・東北豪雨の際の写真を提示して、大崎市で起きた大雨被害について考えさせる。さらに、大雨のときに地域で起こり得る様々な危険を自分事として捉えて、どのように行動したら安全に避難することができるか考える。その際、p 4 c 形式での話し合いを取り入れ、児童が自分の考えを安心して、意欲的に話せるような場の設定をする。多様な考えがあることに気付かせ、他者の考えを聞きながら自分はどのように避難するか考える態度を身に付けさせたい。

第二時では、第一時に学習した洪水害における危険を考慮し、安全に避難するための方法を考えさせる。まず、与えられた洪水時の場面設定に応じて、いつ、どこに避難するかについて個人で考えワークシートに記入させる。自分の考えを明らかにすることで児童が自信を持って発表し、その後の話し合いが活発に進むようにする。その後、自分の考えを基に、場面設定ごとのグループで「こんなときどう行動するか」を話し合い、他者と協力しながら避難行動を考える態度を身に付けさせる。また、状況に応じて避難行動が違ってくことも理解させたい。

第三時では、「つかむ」の段階で関東・東北豪雨の洪水が決壊したニュース映像を見せ、早めに避難することや、状況を把握してどのような行動が適切なのかを考えることの大切さに気付かせたい。その後、宮城県土木部河川課から出されている「洪水時の避難の心得」を児童が分かりやすいように修正したものを見せ、避難行動の仕方を確認する。「考える」の段階では、大崎市の浸水想定区域マップを提示し、どの地域で浸水被害が大きくなるかを考えさせる。その際、関東・東北豪雨で西古川地域が浸水した写真と浸水想定区域マップを照らし合わせることで、実際に洪水が起きたときの状況を想像できるようにしたい。そして、実際に洪水が起きた場合に所定の場所から安全に避難するための避難経路を考えさせ、グループや全体で考えを共有する。

第四時では、授業参観の際に家族で防災について話し合う機会を設け、防災手帳を作成する活動に取り組ませることで、家庭と協力した防災教育を行い、児童がより防災意識を高められるようにする。家庭との連携を図った防災教育を目指していきたい。

理科や社会科等の各教科や、学校行事等と相互に関連させながら、特別活動において地域で起こり得る水害について特に重点をおいて学習し、自分で考えて行動しようとする態度を身に付けていく。

6 自己の研修課題との関連

(1) 研修テーマ 災害時に自ら考え、判断し、避難行動をとる児童を育む授業を目指して

ー 地域の特徴を理解させるための教材・教具の工夫を通して ー

(2) 研修課題との関連

① 目指す授業像

地域の特徴を理解させるための教材・教具の工夫を通して、災害時に自ら考え、判断し、避難行動をとる態度を育む授業。

② 向上させたい授業力

- ア 地域で起こり得る災害や学区内の危険箇所などを明らかにし、児童の災害に対する意識を高められる授業力
- イ 児童に自分の考えを持たせ、活発に話し合い活動を行わせる授業力
- ウ 家庭との連携を図った授業内容を構成する力

(3) 具体的な取組

本題材の指導において、以下の視点で授業に取り組むことで、問題解決を図っていく。

- ① 地域で起こり得る災害や学区内の危険箇所などを明らかにし、児童の災害に対する意識を高められる授業力
 - ア 地域の川や危険箇所の写真、地域の浸水想定区域マップを見せ、身近で起こり得るということを実感させる。
 - イ 東日本大震災や、関東・東北豪雨の写真や資料などを活用し、これまでの宮城県で起きた災害の状況を教えることで、災害の危険性を感じさせる。
- ② 児童に自分の考えを持たせ、活発に話し合い活動を行わせる授業力
 - ア 自分の考えと理由を明記できるようなワークシートの工夫を図る。
 - イ 自分の考えを伝えたり、友達の考えを参考にしたりして避難行動を決定できるように、ペア、グループ、全体、p 4 c 形式など、様々な形態で話し合い活動を行う。
- ③ 家庭との連携を図った授業内容を構成する力
 - ア 授業の様子を学級通信で知らせたり、家庭学習で家族と防災について話し合ったりする機会を意図的に設け、家庭と連携した防災教育を行う。

7 題材の指導と評価の計画

(1) 題材の評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活への 知識・理解
①地域の特徴から起こり得る災害について関心を持ち、積極的に話し合い活動に参加しようとしている。	②災害時に起こり得る様々な場面において、どのような行動をしたらよいかを自分で判断したり、友達と話し合ったりしながら考えることができる。	③地域の特徴から起こり得る災害について理解するとともに、災害についての正しい知識を身に付けることができる。

(2) 題材指導計画（4 時間扱い 本時 3 / 4）

区分	主な学習活動	学習 形態	評価規準(評価方法)
第一時	- 写真を見て、大崎市で起きた大雨被害について知る。 - 洪水が発生した場合の危険を想定し、身の守り方を考える。 - 避難するか、しないかを考えてワークシートに記入し、それを基に p 4 c 形式で話し合いを行う。	全体 全体 個人 全体	①（ワークシート，行動観察，発表） ②（ワークシート，発表） ③（ワークシート，発表）
第二時	- 洪水のときの危険や避難の仕方について振り返る。 - グループごとに与えられた洪水時の場面設定により、自分だったらどうするかを考え、ワークシートに記入する。 - それぞれの考えを出し合ってグループで話し合いを行い、行動の仕方を決定する。「話し合い進め方カード」を使用し、全員が交代で司会を行う。 - グループで考えた行動の仕方を全体で発表し、共有する。	全体 個人 ペア 全体	①（行動観察，発表） ②（ワークシート，発表） ③（ワークシート，発表）
第三時	- 洪水時のニュース映像を見たり、「洪水時の避難の心得」を確認することで、早めに避難することや状況を把握してどのような行動が適切なのかを考えたりすることの大切さに気付く。 - 大崎市の浸水想定区域マップを見て浸水状況を想像する。	全体 全体	①（行動観察，発表） ②（浸水想定区域マップ，行動観察，発表）

【本時】	・洪水害、浸水害が起きたときにどのような経路で避難すればよいかを考える。 ・グループで自分の考えた避難経路を発表する。 ・考えた避難経路を全体で共有する。	個人 ペア 全体	
第四時	・洪水害が発生した際の危険について学習したことを思い出す。 ・防災手帳の作り方を聞く。 ・災害に備えて、家族でどのようなことを話し合っておくべきかを考え、防災手帳を作る。 ・どのようなことを防災手帳に明記したかを全体で発表する。	全体 全体 家族 全体	①（行動観察、防災手帳、発表）

8 本時の計画

(1) 目標

- ① 大雨で道路が浸水したときの危険を知り、実際に避難する際の避難経路について自分事として考えることができる。
- ② 安全な避難経路について、自分の考えを発表したり、友達の考えを聞いたりして、積極的に話合いに参加することができる。

(2) 本時の指導に当たって

視点① 地域で起こり得る災害や学区内の危険箇所などを明らかにし、児童の災害に対する意識を高められる授業力

ア 大崎市の浸水想定区域マップを提示し、洪水が起きた場合の浸水区域を確認する。

イ 地域の浸水時の写真を提示し、浸水想定区域マップと照らし合わせることで、実際に起こり得ることに気付かせる。

視点② 児童に自分の考えを持たせ、活発に話合い活動を行わせる授業力

ア 自分の考えた避難経路について、その経路を選んだ理由を書き込めるようなワークシートを使用し、グループでの話合いが活発になるようにする。

イ 話合い進め方カードを作成し、どの児童が司会になっても話合いがスムーズに進められるようにする。

視点③ 家庭との連携を図った授業内容を構成する力

ア 防災教育の授業の様子や児童の考えを学級通信で知らせたり、家族で話し合ってみての保護者からの感想を掲載したりする。

イ 自分で考えた避難経路が書かれたワークシートを持ち帰り、浸水時の避難経路や避難するときの持ち物などを家族と話し合い、家庭の防災に対する意識を高める。

(3) 指導過程

段階	学習活動と <u>主な発問</u> 児童の反応(・) <u>本時の課題</u>	指導上の留意点(・) <u>評価規準と評価方法</u> <u>【視点との関わり】</u>
つかむ	1 洪水、浸水時のニュース映像を見て、大雨の時、どのような行動をとるべきかを確認する。 ニュース映像のように大雨で洪水や浸水が起きるおそれがあるとき、どんなことに気を付けて避難するとよいか思い出してみましょう。	・早めに避難することの大切さに気付かせるために、避難が遅れた場合に起こり得る危険を考えさせる。
5分	・早めに避難する。 ・大人のひとと避難する。 ・家のひとと避難場所を決めておく。 ・危険な場所を確認しておく。	・前時までに学習したことを思い出させるようにする。 ・大雨のときに危険な場所を理解しておくことの大切さに気付かせるために、地域の浸水想定区域マップを提示する。

つかむ 5分	【洪水時の避難の心得】 ① 早めに避難 ② 避難場所と道のりを確認 ③ 避難のときに注意すること ○ぬれても動きやすい服と靴で ○膝上まで水に浸かるようなら危険 ○2階以上に避難することも考える ④ 地域で協力 ○一緒に避難してみんなで協力する 2 本時の課題を知る。 大雨のときのしん水場所を確認し、安全なひなん経路を見つけよう。	・宮城県土木部河川課から出されている「水害から命を守るプログラム」の中の「洪水時の避難の心得」を児童に分かるように表現を一部改めた心得を確認する。 ・なぜそうしなければならないのかを、前時までの学習を想起しながら一つ一つ確認する。
考える 30分	3 地域の浸水想定区域マップを確認する。 浸水想定区域マップを見て、分かったこと、気付いたこと、思ったことを発表しましょう。 ・△△△△の方は低いし、川の近くだから危険。 ・私の家は 0.5m 浸水する。 ・△△△△の方は 2.0m～ 5.0m も浸水する。 ・学校の周りは、浸水が少ない。 4 避難経路を考える。 【洪水時の避難の心得】を参考にして、安全な避難経路を考えてみましょう。そう考えた理由も書きましょう。 (1) ワークシートに自分の考えを書く。 ①新堀地区～小学校へ避難 ・ 1.0m 浸水する。 ②柏崎地区～小学校へ避難 ・ 川が氾濫する恐れがある。 ・ 西側は山があって避難できない。 ③荒田目地区～中学校へ避難 ・ 渋川と渋井川に挟まれている。 ・ 1.0m 浸水する。 ④斎下地区～中学校へ避難 ・ 家の 2 階へ避難する。 ⑤新堀のコンビニエンスストア～小学校へ避難 ・ 多田川が近くにある。 ・ 1.0m 浸水する。 (2) グループに分かれ、各自が考えた避難経路について話し合う。	・浸水想定区域マップ上に児童の自宅を明記しておく。 ・実際に子供の体のどこまで水が上がってくるのかをものさしなどを使って確認する。 ・避難しない方がよい場合もあることを確認する。 ・大崎市の浸水想定区域マップを提示し、洪水が起きた場合の浸水区域を確認する。 【視点①ーア】 ・地域ごとの浸水時の写真を提示し、浸水想定区域マップと比較することで、実際に起こり得ることであることを理解させる。 【視点①ーイ】 ・ワークシートに赤ペンで避難経路を書き込み、どうしてそう考えたのか理由を書かせる。 ・自分の考えた避難経路について、理由を書き込めるようなワークシートを使用し、グループでの話し合いが活発になるようにする。 【視点②ーア】 ・話し合い進め方カードを作成し、どの児童が司会になっても話し合いがスムーズに進められるようにする。 【視点②ーイ】

	自分で考えた避難経路をグループの友達に発表し、安全な避難経路について話し合しましょう。	
	(3) 考えた避難経路を全体で共有する。	・ 友達の考えた避難経路について、良い点や自分ならこうするという意見を話す。 ・ 避難経路を訂正する場合には、青ペンで経路を書く。 ・ 全体で共有化し、西古川地区の浸水しやすい場所を全員が理解できるようにする。 ・ 「miyagiTouch」で個人のマップを撮影し、考えた避難経路が全体に見えるように工夫する。 思 大雨で道路が浸水したときの危険を知り、実際に避難する際の避難経路について自分事として考えることができる。 (ワークシート, 発表)
振り返る	5 本時の学習をまとめる。 避難するときは・・・ ・ 浸水被害が少ない場所を通る。 ・ 川の近くはなるべく通らない。 6 本時の振り返りをする。	・ 児童の発言を生かし、まとめを書くようにする。
10分	ワークシートに今日の学習の「感想」や「今後の生活に活かしていきたいこと」を書きましょう。	
	・ 避難するときにはなるべく浸水が少ない道路を通りたい。 ・ 友達の意見を聞いて、違う道路の方が安全ではないかと思った。	・ ワークシートに一人一人が自分の言葉で記入することで、本時の学習を今後の生活に活かせるようにする。 ・ 自分で考えた避難経路が書かれたワークシートを持ち帰り、家族と避難経路や持ち物などを話し合う。 【視点③ーイ】

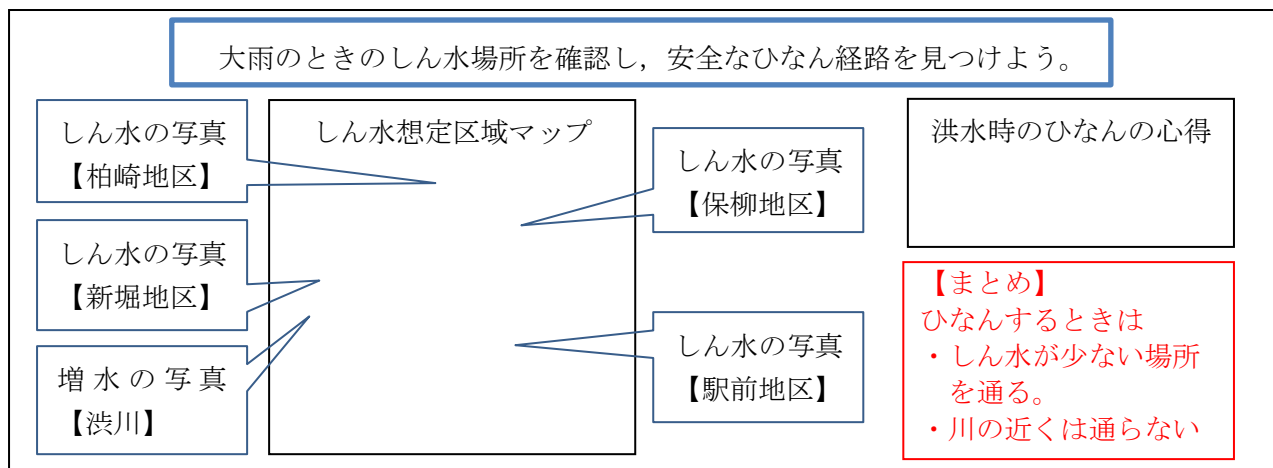
(4) 本時の評価

- ・ 大雨で道路が浸水したときの危険を知り、実際に避難する際の避難経路について自分事として考えることができる。
- (ワークシート, 発表)

(5) 準備物

教師：地域の写真、ワークシート、浸水想定区域マップ、タブレット、パソコン、テレビ
 児童：筆記用具

(6) 板書計画



大雨から身を守るには？

名前 _____

大雨のきけんについて知り、どのように行動したらよいか考えよう。

○こんなときどうする？

家でるす番をしているとき、「ひなんしてください」という防さい無線が聞こえてきたらどうしますか。



※どちらかに○を付けて、理由を書きましょう。

(ひなんする , ひなんしない)

【理由】

【ふり返り】

大雨から身を守るには？

名前 _____

大雨のときのしん水場所をかくにんし，安全なひなん経路を見つけよう。

【洪水時のひなんのころえ】 宮城県土木部河川課より

- ① 早めにひなん
- ② ひなん場所と道のりをかくにん
- ③ ひなんの時に注意すること
 - ・ぬれても動きやすい服とくつで
 - ・ひざ上まで水につかるようならきけん
 - ・2階以上にひなんすることもある
- ④ 地いきで協力
 - ・いっしょにひなんしてみんなで協力する

※ 自分が●にいた場合，安全にひなんするためにはどの経路を通るとよいか考え，うらの「しん水想定区いきマップ」に矢印を使って書いてみましょう。

【どうしてその道を通ろうと思ったのか】

【ふり返し】



大雨から身を守るには？～家族と話し合おう！～

名前 _____

大雨のときのしん水場所をかくにんし、安全なひなん経路を見つけよう。

【洪水時のひなんのころえ】 宮城県土木部河川課より

- ① 早めにひなん
- ② ひなん場所と道のりをかくにん
- ③ ひなんの時に注意すること
 - ・ぬれても動きやすい服とくつで
 - ・ひざ上まで水につかるようならきけん
 - ・2階以上にひなんすることもある
- ④ 地いきで協力
 - ・いっしょにひなんしてみんなで協力する

- ① 自分の家からどのような経路でひなんすると安全にひなんできるか家族と相談して、うらの「しん水想定区いきマップ」に矢印（→）を使って書いてみましょう。
- ② 家族といっしょにひなんするときの持ち物を決めましょう。
※リュックに入る量、命を守るためにひつようなものを持つことが大切です。

【持ち物】

- ③ お家の方から

【相談してみたの感想など】

